ジャパントラスト㈱代表取締役 神谷

2024年アジア出張インタビュー

ジャパントラストかわら版 情熱羅針盤 vol.218

ジャパントラスト株式会社
代表取締役　神谷 隆

今回の出張の目的を教えてください

定期的に各国を周り、海外のお客様、弊社の海外Agent、船会社の本社などを訪問するのですが、今回は各船会社の本社ミーティングが主な目的でした。

ミーティングはいかがでしたか？

4月は船会社との契約更新時期であり、弊社にとって非常に重要な時期です。2023-2024年の弊社実績と、2024-2025年の展望について、また現在のマーケットの傾向、問題点について話し合い、運行船社へ輸送業者としての要望も伝えます。毎年の恒例行事になっており、すでにお互いもよく知った仲ですので、本音で直接意見を交えるとても有意義なミーティングでした。

今回の焦点であったアメリカ向け貨物の状況について教えてください！

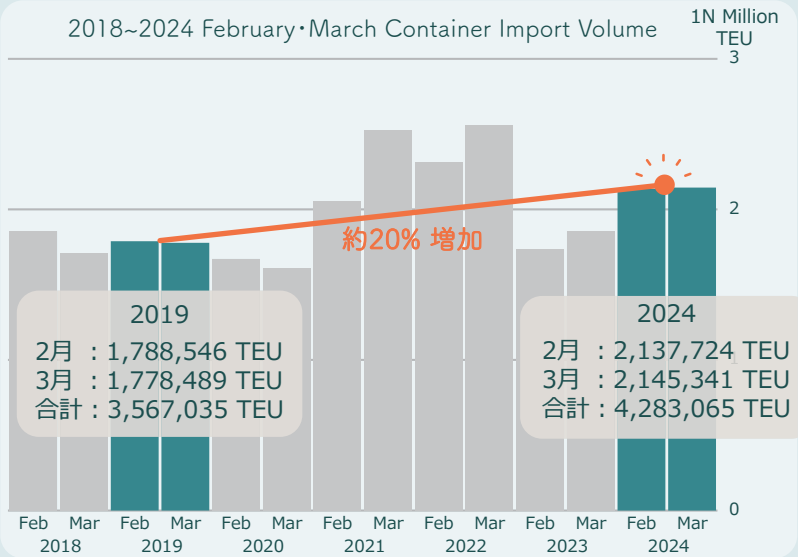
まず、どの船会社もアメリカ航路は概ね順調で、コロナによる混乱期（2021年、2022年）を除いては、現在は過去最高レベルで貨物が動いているとのことでした。現在の貨物量においては、混乱期後の反動による一時的低迷からは完全に脱しているものの、運賃レベルについてはまだ復調したとは言えないレベルであり、適正運賃にはまだ足りないという認識でした。特に話題に挙がったことは、アジア発北米向け運賃の中で、現在の日本発北米向け運賃が群を抜いて安い状況にあり、この運賃格差を埋める必要があるが、日本のいわゆるユニークなマーケットで苦労しているという内容でした。

日本マーケットについて、神谷さんのお考えをお聞かせください

日本の実荷主様から見れば、日本発北米向け運賃においては、他のアジア諸国と比べて優位性があり良いことなのですが、一方で、この状況が船会社の日本離れをさらに進める要因にならないかと不安にも感じました。NVOCCという立場は、船会社から見れば荷主、実荷主様から見れば輸送業者という、両方の視点を持っています。双方の視点がある立場として、長期的、安定的なサービスを求め続けながら、常にアグレッシブに輸送業界を盛り上げたいと思います。

TEU数の推移

2023年はコロナ禍での海運バブルの反動で北米向けの貨物量は大幅に減少、運賃も底をつきスペースもかなり余裕のある状態が続いていました。しかしながら2024年に入り米国のコンテナ貨物輸入量は堅調に推移しています。パナマの干ばつと中東紛争の複合的な影響にもかかわらず、米国東岸・ガルフ諸港の3月の輸送量は安定、ほぼすべての主要港での接続遅延は改善を示しております。



※1TEU＝20フィートコンテナ1個を換算　※Descartes Datamyne™｜February to March U.S. Container Import Volume Comparison

【5月のアメリカの祝日】　5/27(月)　戦没者祈念日/メモリアル・デー